

## シンポジウムS2-3

## 江東病院麻酔科から白鬚橋病院高圧酸素治療部への医療連携活動実績報告

三浦邦久<sup>1)</sup> 石原 哲<sup>2)</sup> 柳 健次<sup>2)</sup>逢坂昭宏<sup>3)</sup> 峰岸唯史<sup>3)</sup> 久武純枝<sup>4)</sup>

- |    |                           |
|----|---------------------------|
| 1) | 医療法人社団 順江会 江東病院 麻酔科       |
| 2) | 医療法人 伯鳳会 白鬚橋病院<br>高圧酸素治療部 |
| 3) | 医療法人社団 順江会 江東病院 ME室       |
| 4) | 医療法人社団 順江会 江東病院 眼科        |

江東病院は東京都江東区にある災害拠点病院の1つであるが、現在高圧酸素治療部がなく、今後増設時高圧治療酸素治療室を作ることを検討中である。近医から当院耳鼻咽喉頭科へ紹介された突発性難聴患者、近医から当院眼科へ紹介された網膜中心動・静脈閉塞症患者に対して、当院麻酔科では星状神経節ブロック (SGB) の適応があれば、以前はSGBのみを行っていたが、日本ペインクリニック学会監修の治療指針<sup>1)</sup>でも、これらの疾患に対して発症直後からSGB、高圧酸素治療 (HBO) を行うことを推奨していることから、地域医療連携を用いて他の医療機関に御願いでこの数年は、HBOを施行している。当院から車で20分以内に行ける病院でHBOがある医療機関は、江東区にある藤崎病院、墨田区にある白鬚橋病院、山田記念病院、江戸川区にある江戸川病院がある。しかし、当科対応医師とHBO治療担当医と直接話せてかつ急患で時間外対応できるのは、白鬚橋病院のみであった。白鬚橋病院は、以前から東京都立墨東病院救命救急センターからの一酸化酸素中毒患者に対しても迅速にHBOを行っている実績がある。当院でSGB、HBO併用療法に同意した突発性難聴計4名、網膜中心動脈閉塞症に対して1名、網膜中心静脈閉塞3名 (1名はHBOのみ) の患者達に対して当院麻酔科でSGBを行い、その後HBOを白鬚橋病院で行った。その結果、網膜中心動脈閉塞症1名は完治、網膜中心静脈閉塞3名中2名が完治し、HBOのみを行なった1名が症状軽快していた。突発性難聴4名中、当院入院中にSGBと同時に行なった1名は完治し、2名は症状軽快。

発症15日からSGB・HBO併用療法を行なった症例は軽快しなかった。当院で行なったSGB単独治療より、SGB・HBO併用療法した方が治療効果は高かった。(下表参照) また、発症7日以内にSGB・HBO併用療法を行なった症例は全て軽快か完治していた。

	SGBのみ	SGB・HBO併用治療
網膜中心動・静脈閉塞症	50% (2名中1名有効)	100% (3名中3名有効)
突発性難聴	70.2% (37名中26名有効)	75% (4名中3名有効)

また、HBO病診連携を行なっていることによって、より深い連携ができ、白鬚橋病院から当院へペインクリニック患者2名を紹介して頂いた。

考察: 発症から1週間治療を行なったSGB・HBO併用療法症例は全て軽快しており、SGB単独療法よりもSGB・HBO併用療法の方が当院の治療成績は良かった。

この事から各々の医療機関が得意な治療方法を行い、かつ自医で施行できない治療法があれば地域医療連携を利用して他医で自医ができない治療法を行ってもらうことにより、患者にとってさらに良い医療提供ができると考えられる。その為には、日頃から地域のHBOの現状をよく把握し、各医療機関の顔がよく見える関係を構築する事が必要不可欠である。

## 【引用文献】

- 1) 日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会: ペインクリニック治療指針改訂第4版. 東京; 真興貿易. 2013; pp147-148